



# 名工



# 宮城

木目工房(仙台市)  
こけし製造工  
**早坂 政弘**さん  
Masahiro Hayasaka

1961年4月15日生まれ。  
1995年4月、師匠の佐藤正廣工人より独立。  
仙台市青葉区西部の自然豊かな場所へ木目工房を構える。  
こけし工人と並行し木地師としての仕事にも従事し、2018年2月には伝統工芸士となる。  
仙台城本丸会館での実演販売を隔週で担当。  
昨年の第65回全国こけし祭りで林野庁長官賞に輝くなど、数々の受賞歴を誇る。



**早坂政弘木目工房**  
〒989-3212 仙台市青葉区芋沢字沢田下15  
TEL 022-394-6030

## 仕事をする上で大事にすべきは「人の輪」、そして「チャレンジ精神」 失敗は必ず成功につながります

中学卒業後の15歳でこけしづくりの世界に入りました。当初は師匠宅に住み込みでしたね。当時、こけしの「系統」すら知らなかったのですが、師匠は遠刈田系でしたので、おのずと私も遠刈田系のこけし、工人ということになりました。遠刈田系は頭が大きいのに対し、胴は細め、目は二重なの大きな特徴です。  
師匠は昔ながらの教える、手取り足取り教えてくれるわけはありませんでしたが、優しく見守ってくれました。ろくろ作業で高い評価を得ているのは、やはり師匠のおかげです。近年、私に付いてくれる弟子もあり、3年間共に過ごしました。私の教えられることは一通り教えたつもりです。独立して頑張っている姿は本当にうれしい限りです。

これまでコンクールに向けた作品づくりにはあまり力を入れてこなかったのですが、このところは盛んに取り組んでいます。世の皆さまに自分のこけしを見てもらって、評価してもらおうことで張り合っています。令和元年度宮城県卓越技能者表彰を頂けたことも非常にありがたいですね。  
今は、同じ遠刈田系の大先人、明治時代に活躍した佐藤松之進の系統のこけしづくりを大きな仕事にしていますが、情報を寄せてくださる方があったり、相談に乗ってくれる人がいたり、本當に助けられています。仕事をする上で大事にすべきなのは「人の輪」、そして「チャレンジ精神」です。失敗は必ず成功につながります。高校生の皆さん、やってみたいと思ったら迷わず挑戦してください。

## 「毎年一年生の気持ちで挑め」 師の言葉を胸に、常に新しい気持ちで 良い酒をつくれるよう挑み続けます

高校を卒業し、実家で稲作を中心に農業をやっていたのですが、20歳の時、気仙沼市の酒蔵から、冬場から春にかけて手が空く時に酒づくりを手伝わないかと誘いがありました。当時、酒を飲める年齢にはなっていました。まだ味わったことさえなく、酒についての知識が全くない中で酒づくりに取り組むことになりました。  
そんなスタートでしたが、少しずつ楽しさを覚えてきていた25歳、また転職が訪れました。お世話になっていた杜氏が「浦霞」を広く知らしめた平野佐五郎杜氏門下だった縁で、当時、浦霞の杜氏だった平野重一杜氏から、手伝いに来てくれる人が欲しいとの依頼があったのです。そうして、気仙沼の酒蔵で酒づくりが始まる前、田植えや

稲刈りが終わった後に「浦霞」の製造に携わるという生活が10年ほど続きました。  
その後、36歳の時に平野杜氏の勧めもあって、株式会社佐浦に入社しました。平野杜氏から常日頃言われていたのは「酒づくりは毎年一年生だ」という言葉です。酒造りを甘く見ないように、という意味がその一言には隠れています。平野杜氏にはチームでの酒造りについても事細かに教わりました。そのことが今回の宮城県卓越技能者の受賞につながっていると思います。  
酒造りで最も大切なのは「協力」です。このことを今、一緒に取り組んでいる蔵人に一生懸命伝えています。これからもみんなで常に新しい気持ちを持ち、良い酒をつくれるよう挑み続けていきます。

株式会社 佐浦 (塩釜市)

杜氏  
**小野寺 邦夫**さん

Kunio Onodera

1956年1月24日生まれ。  
酒づくりに携わり四十数年、浦霞に入社して二十数年、杜氏職としては全国新酒鑑評会での金賞受賞、2015年・18年南部杜氏自醸清酒鑑評会「首席」受賞の実績を誇る。  
佐浦のブランドである「浦霞」の名声を近代にあって高めた、故平野佐五郎杜氏、故平野重一杜氏が培ってきた「平野流浦霞の酒づくり」を蔵人へ継承することに心を砕いている。



**株式会社 佐浦**  
〒985-0052 塩釜市本町2-19  
TEL 022-362-4165 <http://www.urakasumi.com/>

宮城県は、長年にわたり同一職業に従事し、卓越した技能により業界の振興に寄与した技能者を「宮城県卓越技能者(宮城の名工)」として例年、表彰しており、昨年度は7人を選出した。  
今回は、こけしづくりで業界の振興や後進の育成に多大な貢献をしている、こけし製造工の早坂政弘さんと、製造に携わった日本酒を数々の賞に導いている杜氏(とうじ)の小野寺邦夫さんを紹介する。